

# 屋内で捕獲された *Dienerella* 属ヒメマキムシについて

角野智紀

株式会社テイソートヨカ 技術研究所

〒510-0863 四日市市塩浜 4005 番地 1

## The plaster beetle of the genus *Dienerella* (Coleoptera: Latridiidae) collected from indoors in Japan

Tomoki SUMINO

Technical Research Institute, Teiso Toyoka Co., Ltd.,

4005-1 Shiohama, Yokkaichi-shi, Mie 510-0863, Japan

ヒメマキムシ科 Latridiidae は体長が 2 mm 内外の微小な食菌性の甲虫で、世界各地の温帯地域から多くの種が記録されており、日本ではこれまでに 12 属、33 種が知られている。屋外では枯れ草や枯れ枝、落ち葉などから発見されるが、微小で目に付きにくいいため記録としてはあまり多くない。その一方で、カビが生えた食品や工芸品、家具などに伴って、屋内でしばしば発生することがあるが、大量発生につながるケースも多いため、その場合不快害虫として、あるいは異物混入事故を引き起こすなどして問題となる。国内ではこのような屋内性ヒメマキムシは現在 22 種が知られており、代表的な屋内性ヒメマキムシである *Dienerella* 属は現在までに 9 種が知られている。本属のヒメマキムシは、とりわけ屋内で発生しやすいと言われているが、屋内における発生時期や発生状況などに関する情報は限られている。

演者は 2012 年から 2016 年の約 5 年間、主に中部・近畿地方に立地する各種製造工場（食品、医薬品、包装、容器など）、倉庫、宿泊施設、病院など 110 か所の調査地において、床置き粘着トラップ（粘着面：約 80×150 mm、誘引剤なし）を用いた屋内害虫のモニタリング調査を行った。今回、本属ヒメマキムシの生態に関する基礎的知見を得ることを目的とし、モニタリング調査結果から本属ヒメマキムシのデータを抽出し、捕獲された種、分布、発生消長、生息環境などについて調べてみた。その結果、ヒメマキムシ科は 51 か所で確認された。そのうち最も頻度が高かったのはムナビロヒメマキムシ *D. costulata* で、37 か所（82%）で捕獲が見られた。本種は、季節を問わず数か月継続して捕獲されることが多く、ごく稀にはあるが突発的に多発生することがあった。また、他種のヒメマキムシと混在することも多かった（13 か所）。同属では他にイトヒメマキムシ *D. filiformis* が 7 か所で、ハネスジヒメマキムシ *D. elegans* が 3 か所で捕獲された。イトヒメマキムシは 1989 年に静岡県焼津市で多数捕獲された記録があるが、それ以降はないようである。イトヒメマキムシもムナビロヒメマキムシと同様に、特定の時期にピークを持つことなく数か月継続して捕獲が見られたが、個体数はそれほど多くなかった。